

全国長南会通信 55号

事務局 : 300-0301 茨城県稲敷郡阿見町青宿 930 長南秀則 TEL/FAX 029-887-3190

発行日 平成 28 年 10 月 5 日

長南和泉守寒風沢渡来400年祭



9月4日、寒風沢島五輪塔の前で

左後列より 充浩、俊春、田村かなさん、照光、林武弘、前列 秀則、勘一、清

この度、俊春会長の発案により和泉守寒風沢渡来400年祭を企画し、前回の通信54号で参加募集の返信ハガキを同封したところ、35通の返信はがきが到着し、そのうち11名の参加希望があった。欠席の返信の中にも、心温まるコメントが多数書かれてあり、大変うれしく思った。当日は東北、北海道を台風が通過したばかりで、その後も新しい台風が発生するなど天候が心配されたが、塩竈のマリンゲートに到着したときは、朝のうちの雨模様がうそのように、青空が顔を出し始めていた。

茨城県青宿から参加の照光、清、秀則の3人は朝5時に車で出発し、福島原発事故のため通行止めになっていたが、最近開通した常磐道を走り、約4時間弱でマリンゲートへ。まもなく到着した俊春会長と一緒に、

念のため用意してきた傘3本を持参し、市営汽船に乗り込むと、東京の充浩さんと成田市の田村さんがすでに乗船しており、最後に乗船した塩竈市の勘一さんと全員合流し、寒風沢島に向かう。潮陽館では前泊の林さんが待っているはずだ。市営汽船が塩竈港を離れるにつれ、松を頂く島々が見えてくる。長南和泉守が植えた黒松が400年を過ぎた今も尚、かつて松尾芭蕉が感動したという松島湾の絶景を作っている。



長南和泉守は 1580 年の生まれなので、関が原の戦い(1600 年)の時は 20 歳。大坂で豊臣が敗れた後、35～40 歳くらいの時、安房里見家の改易のため、一族と家臣を率いて伊達家を頼り寒風沢島に來たとされる。寒風沢島に定住してからは、海運業を営み一族と島を繁栄させ、伊達家からの信頼を得て、その後の子孫は江戸時代末期まで浦役人として松島湾での重責を担っていた。



長南和泉守と 36 土のお墓参り



潮陽館で座談会

明治になり、廃藩置県によって伊達家が消滅してからは、この地の長南一族は漁業や農業、会社勤めなどをした。

明治 40 年ラッコ漁のためアラスカ方面を航海中だった漁船船長の長南栄蔵が米国に拿捕され(今で言う領海侵犯?)、尋問された様子を記録した当時の日記が塩竈市に残っている。

参加者名

- | | | |
|------------|---------|------|
| 1. 長南 俊春 | 久喜市 | 会長 |
| 2. 長南 照光 | 青宿 | 副会長 |
| 3. 長南 秀則 | 青宿 | 事務局長 |
| 4. 長南 清 | 青宿 | |
| 5. 長南 勘一 | 塩竈市 | |
| 6. 林 武弘 | 習志野市 | |
| 7. 田村 かなさん | 成田市 | |
| 8. 長南 充浩 | 江東区 | |
| 9. 長南 昭子 | 寒風沢島潮陽館 | |

和泉守は松島の島々に黒松を植えて景観を作った実績が評価され、1640 年に瑞巖寺雲居和尚から賞状を賜っている。和泉守 60 歳の時である。(賞状は現在、瑞巖寺宝物殿に保存) 和泉守から 18 代目の長南清八郎は明治に年号が変わるころ、函館五稜郭に向かう榎本武揚率いる幕府軍艦が寒風沢に立ち寄った際、修理を指揮した史実がある。当時幕府側の伊達家から依頼されての仕事だったのだろう。



松島瑞巖寺栽松記念碑の前で

初めての寒風沢



長南 充浩

9月4日(日)当日、九州に台風が上陸する中、東京は少し雨っぽい。東北新幹線と仙石線を乗り継いで塩竈港に到着。9時30分出港の市営汽船に乗り込んで

いると、「東京の長南さん居ますか？」と秀則さんに声をかけられる。人生53年目で初めてお目にかかる自分の家族以外の長南さんである。安心するが、何か不思議な感じがした。俊春会長、照光副会長、そして勘一さんにも紹介頂く。皆、長南さんだ。船は棧橋を離れて静かな海を走っている。松が載った小さな岩礁が見えてくる。「この海の向こうに自分のルーツがある」と思うとだんだん感激がこみ上げてくる。天候も良くなり日が差してきた。参加者は8名と少な目らしいが、この時点で既に「来れて良かった」と思っている。「長南という自分は一体どこから来たのか？」もの心ついた時からずっと疑問だった。今日、いよいよご先祖に会える。

生まれは大阪。父親はサラリーマン。周りにもどこにも長南さんは居らず、自分の家族だけが長南さんだった。孤独感はあったが逆に「自分がしっかりしないと！」と思っていた。大学卒業後、電機メーカーのパナソニックに就職。36歳で中国大陸への赴任を命じられ、準備で久し振りに戻った実家で会報を見て長南会の存在を知る。後で知るが、電話帳を基に全国発信した会報だったらしい。興味が無い両親に代わって中国に持参した。その後、中国に送付される会報や「長南氏の研究(中村就一著)」の内容は興味深いものばかりだった。異国勤務中は「孤独感どころか、素晴らしい歴史に満ち溢れている」と、とても誇らしい気持ちになっていた。13年間の中国勤務から帰国した4年前には寒風沢には一度は行こうと決めていたので、今回の400年祭に迷わず申込み。夏の帰省で父親からようやく聞けた少しの伝え語りや仏壇

の位牌名が「長南氏の研究の記述(595頁)」と一致した時は本当に身震いした。寒風沢長南の七親族の一家として明治維新後の長南年債を負担したこと、4代前まで島に居たことが分かり、長年の疑問が解消した。

初めて訪れる寒風沢は美しいところだった。ただ津波被害から元通りになっておらず、昔の繁栄の面影が見られないのは残念でもある。寒風沢島が防波堤になり、内側の島の被害は少なかったと聞いた。「少し来るのが遅かった」。完全に真夏の日差しが戻ってきた中を墓地に向け出発。家が疎らな潮陽館周辺と異なり、高台の墓所には立派な墓石が並ぶ姿を見て気持ちも和らぐ。更に半数弱が長南一族の墓、その立ち並ぶ姿は壮観ですらある。参加者全員で順番に和泉守のお墓と36土墓に線香を手向けて祈る。「機会を見つけて息子をここに連れて来なくては」と、自分も祈る。その後潮陽館に戻り、昼食のご馳走を頂きながら、副会長から50年前の350年祭の様子を伺う。50名も参集したこと、当時の寒風沢島に居た長南さん15軒に分宿したこと、全てが興味深い。長老の勘一さんからは寒風沢島の今昔、史跡等の話も聞いた。試みに自分の直系のことで何か伝聞はないか？を聞いて見るが、4代前ともなるとやはり難しい様だ。でも不思議と残念な気持ちは浮かんでこない。船が来るまでの時間、勘一さん島を案内してくれた。島の人口も減ったが、長南さんも今は3軒だそう。

松島瑞巖寺へ きれいで穏やかな海に戻り瑞巖寺へ。お寺は津波被害の参道修復工事以外は無事。伊達の殿様が保護しただけあり立派かつ歴史のあるお寺に驚く。肝心の栽松記念碑はなかなかの場所に鎮座しており、改めて和泉守の業績に一族末裔として誇りを感じる。碑の前に陣取る我々の前を沢山の観光客が通り過ぎると、彼らに栽松のことを自慢したい気持ちにさえなる。ここでは背面の寄付者名に自分と息子の名前を確認でき大満足。戻りの新幹線の時間もあり宝物殿や本殿には行けなかったが、栽松の一族だと言えば特別に宝物

(掛け軸)を直に見せてもらえるとのこと。ここは名勝松島海岸とセットでゆっくりと再訪してみたいと思う。ここで長南会の皆さんとはお別れをし、中村就一氏の研究お仲間の林さんと一緒に帰京の途につく。思い出深い、

そして大いに満足した一日となった。紙面をお借りし恐縮だが、ここで今回の企画を頂いた皆様に本当に感謝を申し上げたい。そして今後とも末永くお付き合いをお願い致します。

東京都江東区

「浦戸諸島島歩きマップ」に、 長南和泉守の事跡を載せよう!

私は晴れ男。長南氏の集いに参加して傘を挿したことは一度もない。今回も好天だった。

潮陽館の2階の座敷は海風が心地よくやはり前泊はいいなと塩竈港の市営汽船の自動券売機の棚で入手した「浦戸諸島島歩きマップ」を眺めているとエッー、花魁島があるではないか。ところで長南和泉守の事跡は如何にと目を皿にしたが一言も掲載されていない。

イヤハヤである。発行は塩釜市、編集は市営汽船、浦戸諸島開発総合センターとなっており、ハハーン。長南和泉守のことを編集者は全くご存じないのだと思った。

翌日、和泉守の展墓(墓参のこと。中村就一さんがよく使った)の後、潮陽館での座談会の席上、このマップをご披露した。塩竈市

に長南和泉守とその子孫のことをもっと知ってもらべきだとの結論となった。

瑞巖寺に向かう間に、塩竈港の券売機の棚にはもうなかったこのマップを、充浩さんが手品師のようにどこからか見つけ出して全員に配付してくれた。青宿の皆さん分も。

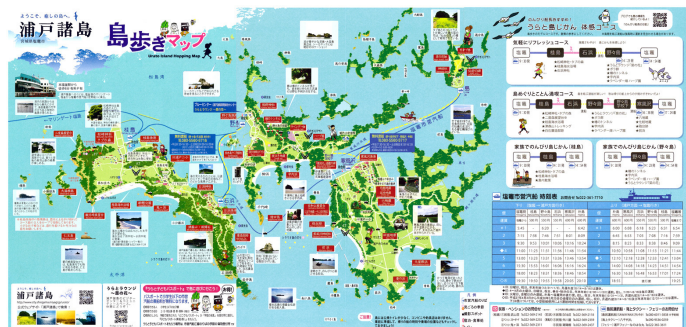
秀則さんへ。「全国長南会通信」のバックナンバーや今後発行する通信の贈呈先に塩竈市営汽船などの関係機関を加えたら如何でしょう。

中村就一さんのご労作も大いに活用いたしましょう。

千葉県習志野市



林 武弘



国でも有数の産地で、秋になると生牡蠣の水揚げ・出荷が盛んになります。また、牡蠣の稚貝「種牡蠣」の産地もあり、広島や岩手など全国の牡蠣の産地に送られ養殖されています。(浦戸諸島島歩きマップの1部)

江戸時代には伊達藩の江戸廻米の港として栄え、日本人で初めて世界一周をした津太夫・左平の出身地でもある寒風沢。現在ではのどかな漁村の風景が広がっています。主な産業は漁業で、特に牡蠣は全



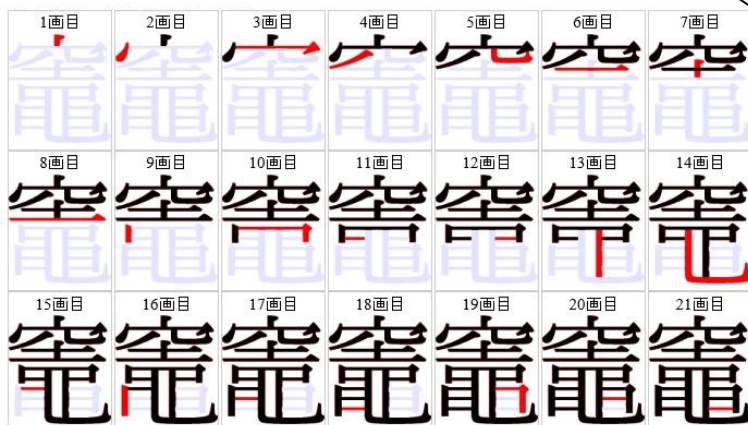
塩竈?塩釜?

塩竈市役所で作成する公文書においては、「塩竈」を使用することになっている。ただし、市民、あるいは他の官公庁が「塩釜」と表記した文書については、「塩竈」と解釈して受理することとしている。

市役所で、塩竈という表記に統一するようになったのは、昭和 16 年(1941 年)からで、

それ以前には、「鹽竈」、「塩竈」、「鹽釜」、「塩釜」など、混在して用いられていた。「鹽」という漢字については、当用漢字の「塩」を用いてもさしつかえないが、「竈」と「釜」では、字義が違っており、本市の地名の由来が、「鹽竈神社」の社号に因むものであるところから、「釜」ではなく「竈」を用いることに統一された。

塩竈市の『竈』の字については、『竈』と『釜』の両方を使用することが認められている。『竈』は21画と画数が多く、書き方も難しい漢字なので、正しい書き順は右図のとおり。(塩竈市ホームページより)



つづれ織り上品に 長南光

横糸で文様をつづれ織りに取り組む長南光さんの初の個展が、鶴岡市の王祇会館で開かれている。櫛引地域に伝わる黒川能の装束や能面を描いた織物、帯など上品な作品が並ぶ。

長南さんは櫛引地域にある農家レストラン知憩軒の店主。仕事の少ない冬場などにできる仕事をつくり、女性の自立を促そうと、42歳でつづれ織りを学び始めた。地域の女性らに技術を教えてグループを立ち上げ、帯などを受注生産する一方、黒川能の装束も制作した。現在は農業に従事しながら、個人的に作品制作に励んでいる。

会場には約30点を展示。長南さんが地域の女性ら3人と7ヶ月かけて作った能装束は演目「胡蝶」で使用された。オレンジ色と水色を基調に、色とりどりの蝶を立体的に織り込んでおり、訪れてい



る人々は興味深そうに眺めていた。

長南さんは同市出身のつづれ織り工芸家で、世界平和を願って曼荼羅を作り続けた遠藤虚籟に感銘を受け、つづれ織りを継承したいと考えている。「今は幸せすぎる時代で、自然の恵みや日常の大切さなどを忘れてしまっている。作品を通じて虚籟さんの思いを伝えたい」と話した。

(山形県鶴岡市、9月21日山形新聞)

会費ありがとうございます

長南良彦	宮城県	2,000
星川十一	宮城県	2,000
長南英次郎	千葉県	10,000
長南一美	山形県	2,000
長南竹雄	宮城県	2,000
長南 清	茨城県	2,000

2016/06/21～2016/09/30

敬称略



長南家先祖の墓、五輪塔に顕花



潮陽館で昼食をとりながらの座談会



勘一さんに質問する充浩さん



和泉守と36士墓に顕花



船から見える松島湾の島々

今回の企画に際し、供花代として、斎藤武夫様（東京都大田区）と林武弘様（千葉県習志野市）からご芳志を頂戴しました。ありがとうございました。



松島湾の島々



帰りの船が寒風沢栈橋に入ってくる



津波で流されたため場所を変えて新しく作られた栈橋



帰りの船から見た桂島で釣りを楽しむ家族



瑞巖寺参道再生工事中の看板



和泉守の墓から見える、まるで油絵のような寒風沢漁港



3. 11震災以前の瑞巖寺の参道(左)、津波の塩害で杉並木が枯れてしまったため現在再生工事中(右)

長南七郎忠清について

この下図の浮世絵は江戸時代末期から明治時代初期にかけての浮世絵師 一寿齋芳員(歌川芳員)が描いた作品ですが、ここに上総介忠清が登場しています。もう一人平家の侍大将として上総介忠清 別号藤原忠清または伊藤忠清がいますが壇ノ浦の戦いで平家滅亡後 源氏に捕えられて六条河原で処刑されています。

『長南氏の研究』でも別名 上総忠清と呼ばれた事などを考えると、下図に登場する人物は長南七郎忠清で国司として実際に実

務を掌握していた次官を介と呼ぶ事から上総介と呼んでいたか。

この絵の中に上総介廣常がない。また義経と弁慶が登場している事などから 1183 年～1185 年(寿永 3 年～文治元年)に行われた評定と観てとれる。「鎌倉武鑑」「源平盛衰記」「源氏一統志」「鎌倉見聞誌」「鎌倉志」「鎌倉史」「武徳鎌倉旧記」すべて一応目を通しましたが出てきません、この絵を描くにあたり何かの書物を見たはず。会員の皆様、情報があればご一報ください。

三重県名張市 江南 正



- 寿永 1182 寿永 2 年 源義仲、砺波山に平軍を破る
平氏西国に逃れ、義仲京都に入る
千葉広常、頼朝に誅殺さる
寿永 3 年 一の谷の戦い
- 元暦 1184 源義仲が敗死し、源頼朝・源義経が都に入る
源頼朝が、公文所・問注所を置く
- 文治 1185 文治元年 壇ノ浦の戦、平家滅亡
文治元年 源頼朝が守護・地頭を置く
文治元年 源頼朝が伊勢神宮領を守護
不入の地とする
文治 5 年 義経、藤原泰衡に討たる

長南氏の研究、長南忠春と長南忠清の記事に、二人は兄弟と言う説があるという。錦絵には義経と忠春が描かれているものが多数ある。しかし、忠春と忠清が同じ場面で描かれているものは見たことがない。もしかして同一人物？それとも作者が混同している？

